

## 現場の苦勞談

## 防衛省防衛研究所

防衛省防衛研究所図書館史料室 齋藤 祥夫

平成 14 年 3 月 25 日に防衛研究所に赴任し、初めて耳にした言葉が、「アジア歴史資料センター」でした。すでに平成 12 年からアジア関連の歴史史料をインターネット上に配信し、国内はもとより全世界に向けて発信するという壮大で崇高な事業は始まっていて、その担当を命ぜられた私は、責任重大な事業を引き継ぎました。図書館史料室が所蔵する戦史史料を右も左もわからず引き継いだわけですから、全く知識がなかった自分にとって、これら史料の分類区分すら理解するだけでもかなりの時間を要したことは言うまでもありません。

しかし、依頼された所要数を提供しなければならないという使命感から、所蔵史料についての初歩から勉強しました。陸軍省及び海軍省の分類構成及びそのちがい、編纂方法の差異、目録の全体像等々です。史料目録は史料カード及び冊子目録しか存在していませんでしたのでそれらを読み、史料専門官に質問し、史料の全体像が徐々に理解できるようになりました。

そんなこともあって、すでに史料の一部が撮影してあったマイクロフィルムをデジタル画像へコンバートし、それを提供することはさほど難しいとは思わなくなりました。しかし、そこに大きな落とし穴があったのでした。

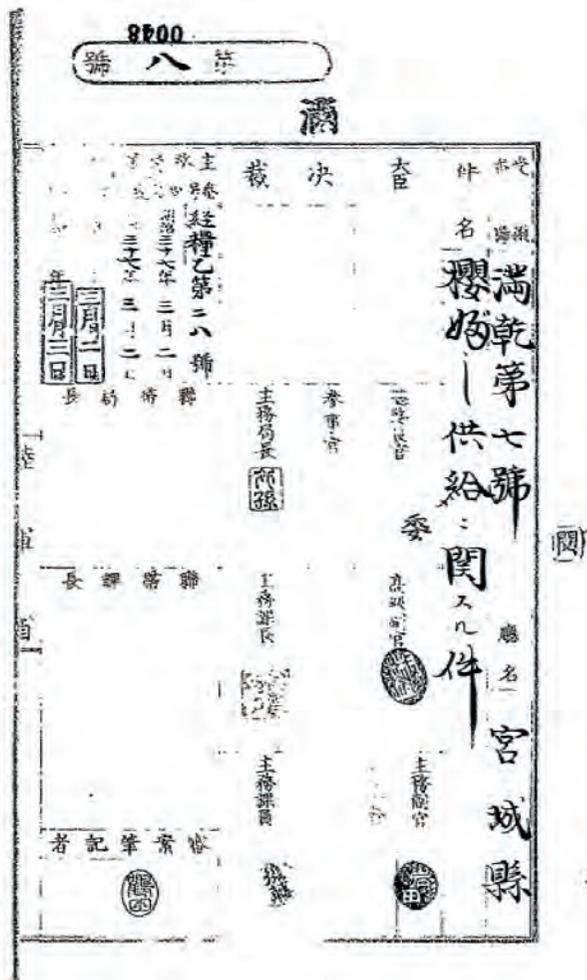


図 1

というのは、業者から納入された関連付けデータ（リンクデータ）を見直した際、件名中に「？」の記号が多く見られました。それは、該史料を判読できないということの意味していました。原史料を一読したところ、業者ですら読めない文字は、戦後世代の私には簡単には読めるはずはありません。このままでは件名が意味不明になってしまうおそれがあるため、くずし字に関する辞書を用い必死に調べました。時には校正が1日に数ページしか進まないこともありました。本当にこのようなペースで全部提供できるのだろうかと思案に悩んだこともありました。

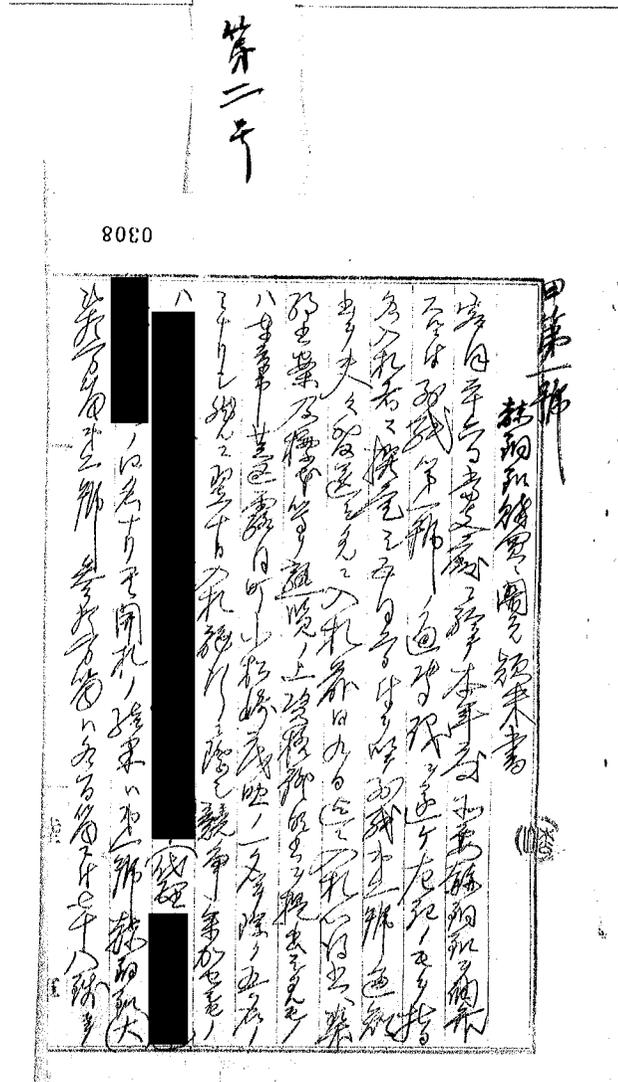
たとえば図1ですが、明治37年の『陸軍省陸満普大日記』の合議書で明瞭な文字ですが、業者が納入したマイクロフィルムの中にあったタイトルの一つは「櫻？ノ供給ニ関スル件」でした。くずし字辞典などで探しましたが、見つかりませんでした。その漢字について母（当時78歳）に聞いたところ、すぐに「桜ぶし」だよと言われ「桜ぶし供給に関する件」であることが判明しました。比較的簡単に思える文字であっても、当時のことがわからなければ読めないこともあるのだなと改めて思いました。

平成15年に政府方針であるe-Japanに基づきデータベース構築数の増加についての打診がありました。デジタル処理数が増えればそれに伴ってデジタル化すべきマイクロフィルムの撮影数増加すなわち撮影用カメラの増加と、それに応ずる場所の確保が必要となります。防衛研究所では、史料の紛失、プライバシーの保護の観点から撮影史料を所外に持ち出せないため、撮影場所の確保には大変苦労しました。当初プレハブを建てて、撮影を行うという案が出ましたが、プレハブを建てる地積並びに予算の確保ができず、既存の部屋内で撮影することとなりました。撮影機1台あたり、約3,000コマ/1日と計算すると、撮影機を3台設置しなければならず、また、撮影するための前処理及び撮影終了後の再編綴ができる大きさの部屋も確保する必要がありました。今までの倍近くを撮影するためには、それまでの倍以上の面積である約110㎡の撮影室を確保しなければならず、研究部、総務課を巻き込んでの長時日にわたる調整と大移動が必要でした。撮影室を確保するために史料整理室を調査員室に、調査員室を研究部員室にと、ところてん方式で移動しました。撮影機が増えることにより電気工事も必要になり、約2ヶ月にわたり撮影増加に向けての準備が行われました。場所の確保がいかに大変か身にしみた次第です。

最後に、提供史料のプライバシー保護についてです。旧陸海軍の史料には、公文書でありながら、個人に関する情報が多数存在しています。一般に公開が原則である公文書でも、プライバシー保護の観点から非公開とすべき部分があり、それをどのような形式で提供すればいいのかという点です。TIFF形式で2値（白か黒）の画像にマスキング（黒）して、画像を上書きし、CDに焼き直すということにしました。この方法であればマスキングすべき文字の上に黒く染めるのではなく、その位置を黒くしてしまうことで、もとの文字情報は消えてしまいます。これにより確実なマスキング

ができたと言えるでしょう。ただ、マスキングをするキーワードの判別について依然苦勞しています。最初に述べたように、難読文字文書のマスキングには、マスキングすべき文字自体がわからないのです。たとえば図2のような史料は、全体的に個人情報に関することが記載されていることはわかりますが、よく中身を読まないで最小限のマスキングすべき箇所がはっきりわかりません。一方で、史料は公開原則ですので、公開すべきところをマスキングしてしまうわけにはいきません。したがって慎重に実施しなければならず、難読である当時の行書でも前後の史料等をよく確認しながらマスキング作業を実施しています。

歴史的に重要な戦史史料は、日本国民ばかりでなく人類の貴重な財産です。このことを肝に銘じ、原史料に忠実なデジタル画像を提供することにより、アジア歴史資料センターの理念である「いつでも、どこでも、だれでも、無料」な公開に少しでも貢献でき、利用者に満足していただけるよう努めています。



史料 花梅

図2